



平成 20 年 12 月 29 日

各 位

会 社 名 株式会社 ジェイホーム
代表者名 代表取締役 大宮 健次
(J A S D A Q ・ コード 2 7 2 1)
問合せ先 経営管理室長 高橋 一俊
電 話 0 3 - 5 3 2 4 - 6 2 6 1

業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえて、平成 20 年 8 月 12 日付け中間決算発表時に公表しました業績予想および期末配当予想を、下記のとおり修正いたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 平成 20 年 12 月期 業績予想の修正 (自平成 20 年 1 月 1 日 至平成 20 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想 (A)	1,051	2	3	32
今回修正予想 (B)	850	△65	△66	△37
増減額 (A - B)	△201	△67	△69	△69
増減率 (%)	△19.1%	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 19 年 12 月期)	769	△29	△31	△106

(2) 業績予想修正の理由

米国発の金融危機は急激に我が国の実体経済へ影響を及ぼしており、住宅業界にもその影響の色は濃く、当社の営業件数等の低迷をもたらしております。住宅資材価格が高騰する一方、生活物価の上昇高騰、失業率の増加等による個人消費の減退が懸念される厳しい環境となっております。この結果として住宅の買い控えが強まり、住宅需要が低迷することとなりました。

このような環境のもと、建築業界における不況感は根強く、住宅 F C 事業におきましては、下期における新規 F C 加盟 5 店の達成が困難になったと判断いたしました。(前回予想数値 208 百万円、今回修正予想 198 百万円)

新規 F C 加盟店の開拓におきましては、未出店地域への積極的な展開を図ること、入会審査基準の見直し等を行うことで当期の業績改善を目論みましたが、想定していた以上の金融経済の混

乱、それらに起因する景気後退により、思うような新規開拓が進みませんでした。

またウェブダイレクト事業におきましても直需案件の引き合いはあるものの、正式受注までは至っておらず、同様に厳しい状況となりました。（前回予想数値 60 百万円、今回修正予想 0 百万円）

それに対し、新築住宅需要の伸び悩みを受け、住宅資材販売事業におきましては、増改築から小規模な営繕まで受注することができました。しかしながら、住宅資材価格の高騰により利益率が大きく低下し、収益面では貢献するに至りませんでした。（前回予想数値 693 百万円、今回修正予想 630 百万円）

また、下期から本格的にスタートした、エネルギー関連事業においては全国各地でエネルギーセミナーを開催し、住宅メーカーとしての「創エネ」提案を積極的に行ってまいりました。消費者のエネルギーに対する関心が高まっている環境下において、下期計画で売上高 90,000 千円を見込んでおりましたが、後半は平成 21 年から受付開始予定の「住宅用太陽光発電導入支援対策費補助金」が発表されたことによる買い控えが大きく影響したことで、計画を大きく下回ると判断いたしました。（前回予想数値 90 百万円、今回修正予想 22 百万円）

この結果、売上高及び利益面においてすべて減収減益となり、業績予想に対して大きく乖離する見込みとなりました。

【ご参考】

セグメント別売上高

(単位：百万円)

事業の種類別 セグメント	当期（平成 20 年 12 月期）			前期 （平成 19 年 12 月期）
	前回公表予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減 (B) - (A)	実績
住宅 F C 事業	208	198	△10	242
ウェブダイレクト事業	60	0	△60	30
住宅資材販売事業 (内エネルギー関連)	783 (90)	652 (22)	△131 (△68)	496 (0)
合計	1,051	850	△201	769

2. 配当予想の修正

(1) 配当予想の内容

	中間期 (実績)	期末	年間
前回予想 (平成 20 年 8 月 12 日)	円 銭 0 00	円 銭 300 00	円 銭 300 00
今回修正	0 00	0 00	0 00
(ご参考) 前期配当実績	0 00	0 00	0 00

(2) 配当予想修正の理由

当社は株主のみなさまに対する利益の還元を経営上重要な施策の一つとして位置付けておりま

す。しかしながら、当期計画を大きく下回ることとなることから、内部留保を図り、財務体質を改善することで株主価値、企業価値を向上させるためにも、まことに遺憾ながら現時点での配当予想は無配とさせていただきます。

株主の皆様には深くお詫び申し上げるとともに、来期の黒字回復を目指し全社一丸となつての努力を続けてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※今回の業績予想修正値は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断した数値であり、多分に不確定な要素を含んでおります。したがいまして、実際の業績は、当社を取り巻く経済情勢、市場動向等、今後様々な要因によって、記載の金額の予想数値と異なる可能性があります。

以 上